



本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1 9 9 8 年 7 月 8 日

出 願 番 号
Application Number:

平成 1 0 年 特 許 願 第 1 9 3 0 4 7 号

願 人
Applicant (s):

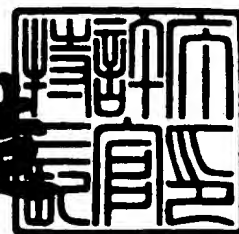
浜松ホトニクス株式会社

RECEIVED
APR 17 2001
Technology Center 2600

2 0 0 0 年 1 2 月 8 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



【書類名】 特許願

【整理番号】 HP98-0234

【提出日】 平成10年 7月 8日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H01L 31/00

【発明の名称】 固体撮像装置

【請求項の数】 3

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県浜松市市野町 1 1 2 6 番地の 1 浜松ホトニクス株式会社内

【氏名】 水野 誠一郎

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県浜松市市野町 1 1 2 6 番地の 1 浜松ホトニクス株式会社内

【氏名】 山川 博雄

【特許出願人】

【識別番号】 000236436

【氏名又は名称】 浜松ホトニクス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100088155

【弁理士】

【氏名又は名称】 長谷川 芳樹

【選任した代理人】

【識別番号】 100089978

【弁理士】

【氏名又は名称】 塩田 辰也

【選任した代理人】

【識別番号】 100092657

【弁理士】

【氏名又は名称】 寺崎 史朗

【選任した代理人】

【識別番号】 100110582

【弁理士】

【氏名又は名称】 柴田 昌聰

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014708

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 固体撮像装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 入力した光信号を電流信号に変換する光電変換素子と該電流信号を出力端子に出力するスイッチ素子とを含む受光素子と、

前記受光素子の出力端子から出力された電流信号を入力し積分して電圧信号を出力端子に出力する積分回路と、

前記積分回路の出力端子から出力された電圧信号を入力する容量素子と、前記容量素子から出力される電圧信号を入力端子にを入力する増幅器と、前記増幅器の入力端子と出力端子との間に設けられ容量値が可変である可変容量部と、前記増幅器の入力端子と出力端子との間に設けられたリセット用スイッチ素子とを有し、前記容量素子に入力した電圧信号の変動分に応じた値の積分信号を前記増幅器の出力端子から出力する可変容量積分回路と、

前記可変容量積分回路から出力された積分信号を入力し、この積分信号の値と基準値とを大小比較して比較結果信号を出力する比較回路と、

前記比較回路から出力された比較結果信号を入力し、この比較結果信号に基づいて前記可変容量部の容量値を制御するとともに、この比較結果信号に基づいて前記積分信号の値と前記基準値とが所定の分解能で一致していると判断した場合に前記可変容量部の容量値に応じた第 1 のデジタル信号を出力する容量制御部と

を備えることを特徴とする固体撮像装置。

【請求項 2】 前記容量制御部から出力された第 1 のデジタル信号を入力し、この第 1 のデジタル信号に対応する第 2 のデジタル信号を出力する読み出し部を更に備えることを特徴とする請求項 1 記載の固体撮像装置。

【請求項 3】 前記受光素子が第 1 の方向に配列されるとともに各々のスイッチ素子の出力端子が互いに接続され共通の信号出力端子とされて垂直受光部とされ、前記垂直受光部が第 2 の方向に $M1$ 個配列されており、

前記積分回路が $M2$ 個（ただし、 $M2 \leq M1$ ）設けられ、

前記可変容量積分回路、前記比較回路および前記容量制御部を 1 組とする信号

処理部がM3組（ただし、 $M3 \leq M2$ 、 $M3 < M1$ ）設けられ、

M1個の前記垂直受光部、M2個の前記積分回路およびM3組の前記信号処理部を選択的に接続する選択的接続手段を更に備える、

ことを特徴とする請求項1記載の固体撮像装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、2次元光像を撮像することができるMOS型の固体撮像装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

家庭用ビデオ等の様々な分野で使用されている固体撮像装置は、高感度で低ノイズ等の優れた特性を有する電荷結合素子（CCD）方式のものが主流である。しかし、特定の分野では、受光により発生する電荷の転送効率が優れたMOS型の固体撮像装置が使用されている。

【0003】

MOS型の固体撮像装置のうち2次元光像を撮像することができるものは、半導体チップ上に2次元配列された多数の受光素子に対してディスクリートの増幅器およびA/D変換器を設け、各受光素子から出力された電流信号を増幅器により増幅して電圧信号とし、この電圧信号をA/D変換器によりデジタル信号に変換して出力する方式が従来から採用されてきた。しかし、近年、MOS型であることの長所を活かしつつ装置小型化を目指して、増幅器およびA/D変換器を受光素子アレイと同一のチップ上に搭載するとともに回路構成方式を変更する試みが提案されている。

【0004】

例えば、特開平9-51476号公報に開示された固体撮像装置は、受光素子アレイの各列毎に対応して積分回路等を受光素子アレイと同一のチップ上に搭載し、その積分回路等により、受光素子から出力された電流信号を増幅するとともにA/D変換するものである。そして、このように構成することにより、チップ

上に搭載される回路規模の増加、チップ面積の増加およびチップの消費電力の増加それぞれの抑制を図っている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来例では、積分回路等による電流信号から電圧信号への積分への変換に際して発生するノイズに対し、これを除去するための信号処理を行っていないことから、増幅の際の S/N 比が良くないという問題点がある。また、積分回路の要素回路である増幅器が有するオフセットばらつきに対して対策を施していないことから、 A/D 変換の結果に若干のオフセット誤差が生じる可能性がある。

【0006】

本発明は、上記問題点を解消する為になされたものであり、 S/N 比が優れ、増幅器がオフセットばらつきを有する場合であってもオフセット誤差を生じることなく、回路規模が小さい固体撮像装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明に係る固体撮像装置は、(1) 入力した光信号を電流信号に変換する光電変換素子と該電流信号を出力端子に出力するスイッチ素子とを含む受光素子と、(2) 受光素子の出力端子から出力された電流信号を入力し積分して電圧信号を出力端子に出力する積分回路と、(3) 積分回路の出力端子から出力された電圧信号を入力する容量素子と、容量素子から出力される電圧信号を入力端子に inputs する増幅器と、増幅器の入力端子と出力端子との間に設けられ容量値が可変である可変容量部と、増幅器の入力端子と出力端子との間に設けられたリセット用スイッチ素子とを有し、容量素子に入力した電圧信号の変動に応じた値の積分信号を増幅器の出力端子から出力する可変容量積分回路と、(4) 可変容量積分回路から出力された積分信号を入力し、この積分信号の値と基準値とを大小比較して比較結果信号を出力する比較回路と、(5) 比較回路から出力された比較結果信号を入力し、この比較結果信号に基づいて可変容量部の容量値を制御するとともに、この比較結果信号に基づいて積分信号の値と基準値とが所定の分解能で一致して

いると判断した場合に可変容量部の容量値に応じた第1のデジタル信号を出力する容量制御部と、を備えることを特徴とする。

【0008】

この固体撮像装置によれば、先ず初期状態として、受光素子のスイッチ素子は開いており、積分回路はリセット状態とされている。また、可変容量積分回路は、リセット用スイッチ素子が閉じてリセットされ、可変容量部の容量値が初期設定される。その後、積分回路は積分可能状態とされ、その後の一定時間経過後に可変容量積分回路のリセット用スイッチ素子が開く。そして、受光素子のスイッチ素子が閉じると、光電変換素子の受光量に応じた電流信号が積分回路に入力して積分され、積分回路から電圧信号が出力される。積分回路から出力された電圧信号は可変容量積分回路の容量素子に入力し、容量素子に入力した電圧信号の変動分が増幅器に入力し、その電圧信号の変動分と可変容量部の容量値とに応じた電荷が可変容量部に流入する。これにより、可変容量積分回路からは、容量素子に入力した電圧信号の変動分に応じた値の積分信号が出力される。

【0009】

可変容量積分回路から出力された積分信号は比較回路に入力し、この積分信号の値と基準値とが比較回路により大小比較され、その比較結果である比較結果信号が比較回路から出力される。比較回路から出力された比較結果信号は容量制御部に入力し、容量制御部により、この比較結果信号に基づいて可変容量部の容量値が制御される。すなわち、可変容量積分回路、比較回路および容量制御部からなるフィードバックループにより、積分信号の値と基準値とが所定の分解能で一致していると容量制御部により判断されるまで、可変容量部の容量値の設定および積分信号の値と基準値との大小比較が繰り返される。そして、積分信号の値と基準値とが所定の分解能で一致していると容量制御部により判断された場合に、可変容量部の容量値に応じた第1のデジタル信号が容量制御部から出力される。すなわち、可変容量積分回路、比較回路および容量制御部を含む信号処理部は、オフセット誤差を除去するCDS（相関二重サンプリング、Correlated Double Sampling）機能、および、アナログ信号をデジタル信号に変換するA/D変換機能を有する。

【0010】

また、本発明に係る固体撮像装置は、容量制御部から出力された第1のデジタル信号を入力し、この第1のデジタル信号に対応する第2のデジタル信号を出力する読み出し部を更に備えることを特徴とする。この場合には、容量制御部から出力された第1のデジタル信号は、読み出し部により、対応する第2のデジタル信号に変換されて出力される。

【0011】

また、本発明に係る固体撮像装置は、(1) 受光素子が第1の方向に配列されるときに各々のスイッチ素子の出力端子が互いに接続され共通の信号出力端子とされて垂直受光部とされ、垂直受光部が第2の方向にM1個配列されており、(2) 積分回路がM2個（ただし、 $M2 \leq M1$ ）設けられ、(3) 可変容量積分回路、比較回路および容量制御部を1組とする信号処理部がM3組（ただし、 $M3 \leq M2$ 、 $M3 < M1$ ）設けられ、(4) M1個の垂直受光部、M2個の積分回路およびM3組の信号処理部を選択的に接続する選択的接続手段を更に備える、ことを特徴とする。この場合には、M1個の垂直受光部、M2個の積分回路およびM3組の信号処理部それぞれの何れかが、選択的接続手段により選択されて接続され、上記と同様に作用する。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照して本発明の実施の形態を詳細に説明する。尚、図面の説明において同一の要素には同一の符号を付し、重複する説明を省略する。

【0013】

（第1の実施形態）

先ず、本発明に係る固体撮像装置の第1の実施形態について説明する。図1は、第1の実施形態に係る固体撮像装置の回路構成図である。なお、この図は、2次元配列された受光素子アレイの各列について、または、1次元配列された受光素子アレイについて、その構成を示すものである。以下では、2次元配列された受光素子アレイの各列についての構成を説明するものとし、受光素子アレイの各列を垂直受光部11とする。

【0014】

垂直受光部11は、受光素子 12_i ($i=1\sim L$)が配列されてなる。受光素子 12_i ($i=1\sim L$)それぞれは、光電変換素子13およびスイッチ素子14からなる。受光素子 12_i ($i=1\sim L$)それぞれの光電変換素子13は、例えば、アノード端子が接地されたフォトダイオードであり、受光した光信号に応じて電流信号を出力する。受光素子 12_i ($i=1\sim L$)それぞれのスイッチ素子14は、垂直走査信号に基づいて開閉し、光電変換素子13のカソード端子から出力される電流信号を入力し、互いに接続された共通の信号出力端子に出力する。受光素子 12_i ($i=1\sim L$)それぞれのスイッチ素子14は、2以上のものが同時に開くことはない。

【0015】

スイッチ素子20は、垂直受光部11の共通の信号出力端子から出力された電流信号を入力端子に入力し、閉じているときには、その電流信号を出力端子に出力する。

【0016】

積分回路30は、スイッチ素子20の出力端子から出力された電流信号を入力し、その電流信号を積分して電圧信号を出力端子に出力する。積分回路30は、電荷増幅器31、容量素子32およびリセット用のスイッチ素子33を備える。電荷増幅器31は、+入力端子が接地され、-入力端子に電流信号を入力する。容量素子32は、電荷増幅器31の-入力端子と出力端子との間に設けられ、入力した電流信号すなわち電荷を蓄える。スイッチ素子33は、電荷増幅器31の-入力端子と出力端子との間に設けられ、開いているときには容量素子32に電荷の蓄積を行わせ、閉じているときには容量素子32における電荷蓄積をリセットする。

【0017】

スイッチ素子40は、積分回路30の出力端子から出力された電圧信号を入力端子に入力し、閉じているときには、その電圧信号を出力端子に出力する。

【0018】

可変容量積分回路50は、スイッチ素子40の出力端子から出力された電圧信

号を入力する。可変容量積分回路50は、容量素子51、増幅器52、可変容量部53およびリセット用のスイッチ素子54を備える。容量素子51は、スイッチ素子40の出力端子と増幅器52の—入力端子との間に設けられている。増幅器52は、+入力端子が接地され、—入力端子に容量素子51からの電圧信号を入力する。可変容量部53は、容量が可変であって制御可能であり、増幅器52の—入力端子と出力端子との間に設けられ、入力した電圧信号に応じて電荷を蓄える。スイッチ素子54は、増幅器52の—入力端子と出力端子との間に設けられ、開いているときには可変容量部53に電荷の蓄積を行わせ、閉じているときには可変容量部53における電荷蓄積をリセットする。そして、可変容量積分回路50は、スイッチ素子40の出力端子から出力された電圧信号を入力し、可変容量部50の容量に応じて積分し、積分した結果である積分信号を出力する。

【0019】

比較回路60は、可変容量積分回路50から出力された積分信号を—入力端子に入力し、+入力端子が基準電位 V_{ref} に設定されており、積分信号の値と基準電位 V_{ref} とを大小比較して、その大小比較の結果である比較結果信号を出力する。

【0020】

容量制御部70は、比較回路60から出力された比較結果信号を入力し、この比較結果信号に基づいて可変容量部53の容量を制御する容量指示信号Cを出力するとともに、この比較結果信号に基づいて積分信号の値と基準電位 V_{ref} とが所定の分解能で一致していると判断した場合に可変容量部53の容量に応じた第1のデジタル信号を出力する。

【0021】

読み出し部80は、容量制御部70から出力された第1のデジタル信号を入力し、この第1のデジタル信号に対応する第2のデジタル信号を出力する。第2のデジタル信号は、第1のデジタル信号の値から可変容量積分回路50のオフセット値を除去した値を示すものである。読み出し部80は、例えば記憶素子であり、第1のデジタル信号をアドレスとして入力し、記憶素子のそのアドレスに記憶されているデータを第2のデジタル信号として出力する。この第2のデジタル信

号は、本実施形態に係る固体撮像装置から出力される光検出信号となる。

【0022】

可変容量積分回路 50、比較回路 60、容量制御部 70 および読み出し部 80 を 1 組として信号処理部 100 が構成される。信号処理部 100 は、オフセット誤差を除去する CDS 機能、および、アナログ信号をデジタル信号に変換する A/D 変換機能を有する。

【0023】

また、タイミング制御部（図示せず）が更に備えられている。タイミング制御部は、受光素子 12_i ($i = 1 \sim L$) それぞれのスイッチ素子 14、スイッチ素子 20、積分回路 30 のリセット用のスイッチ素子 33、スイッチ素子 40、および、可変容量積分回路 50 のリセット用のスイッチ素子 54 それぞれを所定のタイミングで開閉制御し、また、容量制御部 70 の動作を制御する。

【0024】

図 2 は、可変容量積分回路 50 の回路構成図である。この図 2 では、 $1/2^4 = 1/16$ の分解能を有する A/D 変換機能を備える回路構成を示し、以下、この回路構成で説明する。

【0025】

図 2 に示すように、可変容量部 53 は、容量素子 $C1 \sim C4$ 、スイッチ素子 $SW11 \sim SW14$ およびスイッチ素子 $SW21 \sim SW24$ を備える。容量素子 $C1$ およびスイッチ素子 $SW11$ は、互いに縦続接続されて、増幅器 52 の一入力端子と出力端子との間に設けられている。スイッチ素子 $SW21$ は、容量素子 $C1$ およびスイッチ素子 $SW11$ の接続点と接地電位との間に設けられている。容量素子 $C2$ およびスイッチ素子 $SW12$ は、互いに縦続接続されて、増幅器 52 の一入力端子と出力端子との間に設けられている。スイッチ素子 $SW22$ は、容量素子 $C2$ およびスイッチ素子 $SW12$ の接続点と接地電位との間に設けられている。容量素子 $C3$ およびスイッチ素子 $SW13$ は、互いに縦続接続されて、増幅器 52 の一入力端子と出力端子との間に設けられている。スイッチ素子 $SW23$ は、容量素子 $C3$ およびスイッチ素子 $SW13$ の接続点と接地電位との間に設けられている。また、容量素子 $C4$ およびスイッチ素子 $SW14$ は、互いに縦続

接続されて、増幅器 52 の一入力端子と出力端子との間に設けられている。スイッチ素子 SW24 は、容量素子 C4 およびスイッチ素子 SW14 の接続点と接地電位との間に設けられている。

【0026】

スイッチ素子 SW11～SW14 それぞれは、容量制御部 70 から出力された容量指示信号 C の $C_{11} \sim C_{14}$ の値に応じて開閉する。スイッチ素子 SW21～SW24 それぞれは、容量制御部 70 から出力された容量指示信号 C の $C_{21} \sim C_{24}$ の値に応じて開閉する。容量素子 C1～C4 の容量値 $C_1 \sim C_4$ は、

$$C_1 = 2C_2 = 4C_3 = 8C_4$$

$$C_1 + C_2 + C_3 + C_4 = C_0$$

なる関係を満たす。

【0027】

本実施形態に係る固体撮像装置は以下のように動作する。図3は、本実施形態に係る固体撮像装置の動作説明図である。なお、以下では、スイッチ素子 20 およびスイッチ素子 40 それぞれは常に閉じているものとする。

【0028】

本実施形態に係る固体撮像装置では、まず、受光素子 12_i ($i = 1 \sim L$) それぞれのスイッチ素子 14 を開く。積分回路 30 のスイッチ素子 33 を閉じることにより、積分回路 30 をリセット状態とする。可変容量積分回路 50 のスイッチ素子 54 を閉じることにより可変容量積分回路 50 をリセット状態とする。また、可変容量積分回路 50 のスイッチ素子 SW11～SW14 それぞれを閉じ、スイッチ素子 SW21～SW24 それぞれを開くことにより、可変容量部 53 の容量値を C_0 に設定する。そして、この状態で、積分回路 30 のスイッチ素子 33 を開くことにより、積分回路 30 での積分動作を可能にする。この時点で、スイッチ素子 33 の寄生容量の作用により、積分回路 30 にはスイッチングノイズとなるオフセット電圧が発生する。

【0029】

スイッチ素子 33 を開いた時刻から僅かな時間 ΔT_d だけ遅れて、スイッチ素子 54 を開く。これにより、積分回路 50 の出力端子には、積分回路 30 のオフ

セットレベルが除去された形で、この後に発生する光電荷分に応じただけの電圧レベルが相対的に変化する。すなわち、いわゆるCDS（相関二重サンプリング、Correlated Double Sampling）作用が生じる。

【0030】

次に、垂直受光部11における第1番目の受光素子 12_1 のスイッチ素子14のみを閉じる。これにより、それまでの受光によって受光素子 12_1 の光電変換素子13に蓄積された電荷は、電流信号となって垂直受光部11の共通の信号出力端子から出力され、スイッチ素子20を介して積分回路30に入力し、積分回路30により積分され電圧信号として出力される。

【0031】

積分回路30から出力された電圧信号は、スイッチ素子40を介して可変容量積分回路50に入力する。可変容量積分回路50の容量素子51に入力する電圧信号は、積分回路30での光電荷量に応じた出力電圧変化分だけ変動し、その電圧変動分と可変容量部53の容量値 C_0 とに応じた電荷Qが可変容量部53に流入する（図3（a）参照）。

【0032】

引き続き、容量制御部70は、可変容量部53のスイッチ素子SW12～SW14を開いた後、スイッチ素子SW22～SW24を閉じる（図3（b）参照）。この結果、可変容量部53の容量値は C_1 となり、可変容量積分回路50から出力される積分信号の値 V_{sb} は、

$$V_{sb} = Q / C_1$$

となる。この積分信号は、比較回路60に入力し、その値が基準電位 V_{REF} と大小比較される。

【0033】

もし、 $V_{sb} > V_{REF}$ であれば、この比較結果を受けて容量制御部70は、更に、可変容量部53のスイッチ素子SW22を開いた後に、スイッチ素子SW12を閉じる（図3（c）参照）。この結果、可変容量部53の容量値は $C_1 + C_2$ となり、可変容量積分回路50から出力される積分信号の値 V_{sc} は、

$$V_{sc} = Q / (C_1 + C_2)$$

となる。この積分信号は、比較回路 60 に入力し、その値が基準電位 V_{REF} と大小比較される。

【0034】

また、 $V_{sb} < V_{REF}$ であれば、この比較結果を受けて容量制御部 70 は、更に、可変容量部 53 のスイッチ素子 $SW11$ および $SW22$ を開いた後に、スイッチ素子 $SW12$ および $SW21$ を閉じる（図 3（d）参照）。この結果、可変容量部 53 の容量値は C_2 となり、可変容量積分回路 50 から出力される積分信号の値 V_{sd} は、

$$V_{sd} = Q / C_2$$

となる。この積分信号は、比較回路 60 に入力し、その値が基準電位 V_{REF} と大小比較される。

【0035】

以後、同様にして、可変容量積分回路 50、比較回路 60 および容量制御部 70 からなるフィードバックループにより、積分信号の値と基準電位 V_{ref} とが所定の分解能で一致していると容量制御部 70 により判断されるまで、可変容量部 53 の容量値の設定および積分信号の値と基準電位 V_{ref} との大小比較を繰り返す。容量制御部 70 は、このようにして可変容量部 53 の容量素子 $C1 \sim C4$ の全てについて容量制御を終了すると、可変容量部 53 の最終的な容量値に応じたデジタル信号を読み出し部 80 へ向けて出力する。

【0036】

読み出し部 80 では、容量制御部 70 から出力されたデジタル信号をアドレスとして入力し、記憶素子のそのアドレスに記憶されているデジタルデータを、本実施形態に係る固体撮像装置の光検出信号として出力する。

【0037】

なお、垂直受光部 11 の第 1 番目の受光素子 12_1 の光電変換素子 13 が蓄積した電荷を放出しきったと推定される時間を見計らって、受光素子 12_1 のスイッチ素子 14 を開く。垂直受光部 11 の第 1 番目の受光素子 12_1 に応じた光検出信号の読み出しが終了すると、積分回路 30 のスイッチ素子 33 を閉じることにより、積分回路 30 をリセット状態とする。可変容量積分回路 50 のスイッチ

素子54を閉じることにより可変容量積分回路50をリセット状態とする。また、可変容量積分回路50のスイッチ素子SW11～SW14それぞれを閉じ、スイッチ素子SW21～SW24それぞれを開くことにより、可変容量部53の容量値を C_0 に設定する。そして、この状態で、積分回路30のスイッチ素子33を開くことにより、積分回路30での積分動作を可能にする。以後、垂直受光部11の第1番目の受光素子12₁と同様にして、垂直受光部11の第2番目の受光素子12₂に応じた光検出信号を読み出す。垂直受光部11の第i番目の受光素子12_i ($i=3\sim L$)についても同様である。

【0038】

なお、可変容量積分回路50の可変容量部53の構成は、図2に示された回路構成に限られるものではなく、他の回路構成であってもよい。図4は、可変容量積分回路50の他の回路構成図である。可変容量積分回路50をこの図に示すような回路構成とすることにより、本実施形態に係る固体撮像装置は、光電変換素子13に蓄積された電荷が極微小であっても、良好なS/N比を確保することができる。

【0039】

この可変容量積分回路50の可変容量部53は、容量素子C1～C4、スイッチ素子SW11～SW14、スイッチ素子SW21～SW24、スイッチ素子SW31～SW33およびスイッチ素子SW41～SW43を備える。スイッチ素子SW31、容量素子C1およびスイッチ素子SW11は、この順に縦続接続されて、増幅器52の—入力端子と出力端子との間に設けられている。スイッチ素子SW21は、容量素子C1およびスイッチ素子SW11の接続点と接地電位との間に設けられている。スイッチ素子SW41は、容量素子C1およびスイッチ素子SW31の接続点と接地電位との間に設けられている。スイッチ素子SW32、容量素子C2、スイッチ素子SW12、スイッチ素子SW22およびスイッチ素子SW42も同様である。スイッチ素子SW33、容量素子C3、スイッチ素子SW13、スイッチ素子SW23およびスイッチ素子SW43も同様である。容量素子C4およびスイッチ素子SW14は、互いに縦続接続されて、増幅器52の—入力端子と出力端子との間に設けられている。スイッチ素子SW24は

、容量素子C4およびスイッチ素子SW14の接続点と接地電位との間に設けられている。

【0040】

スイッチ素子SW11～SW14それぞれは、容量制御部70から出力された容量指示信号Cの $C_{11} \sim C_{14}$ の値に応じて開閉する。スイッチ素子SW21～SW24それぞれは、容量制御部70から出力された容量指示信号Cの $C_{21} \sim C_{24}$ の値に応じて開閉する。スイッチ素子SW31～SW33それぞれは、容量制御部70から出力された容量指示信号Cの $C_{31} \sim C_{33}$ の値に応じて開閉する。スイッチ素子SW41～SW43それぞれは、容量制御部70から出力された容量指示信号Cの $C_{41} \sim C_{43}$ の値に応じて開閉する。

【0041】

この図4に示す回路構成の可変容量積分回路50を有する固体撮像装置は以下のように動作する。

【0042】

この本実施形態に係る固体撮像装置では、まず、受光素子 12_i ($i=1 \sim L$)それぞれのスイッチ素子14を開く。積分回路30のスイッチ素子33を閉じることにより、積分回路30をリセット状態とする。スイッチ素子40を開く。可変容量積分回路50のスイッチ素子54を閉じることにより可変容量積分回路50をリセット状態とし、その後、スイッチ素子54を開く。また、可変容量積分回路50のスイッチ素子SW11～SW14およびスイッチ素子SW41～SW43それぞれを閉じ、スイッチ素子SW21～SW24およびスイッチ素子SW31～SW33それぞれを開くことにより、可変容量部53の容量値を C_4 に設定する。そして、この状態で、積分回路30のスイッチ素子33を開くことにより、積分回路30での積分動作を開始させる。

【0043】

次に、垂直受光部11における第1番目の受光素子 12_1 のスイッチ素子14のみを閉じる。これにより、それまでの受光によって受光素子 12_1 の光電変換素子13に蓄積された電荷は、電流信号となって垂直受光部11の共通の信号出力端子から出力され、スイッチ素子20を介して積分回路30に入力し、積分回

路30により積分され電圧信号として出力される。

【0044】

そして、スイッチ素子40を閉じる。これにより、積分回路30から出力された電圧信号は、スイッチ素子40を介して可変容量積分回路50に入力する。スイッチ素子40が閉じることにより、可変容量積分回路50の容量素子51に入力する電圧信号が急激に変動し、その電圧信号の変動分が容量素子51から増幅器52に入力する。すなわち、入力した電圧信号の変動分と可変容量部53の容量値 C_4 とに応じた電荷 Q が可変容量部53に流入する。このとき、可変容量積分回路50から出力される積分信号の値 V_S は、

$$V_S = Q / C_4$$

となる。

【0045】

次に、スイッチ素子SW41～SW43それぞれを開いた後、スイッチ素子SW31～SW33それぞれを閉じて、可変容量部53の容量値を C_0 とする。このように変化しても容量素子 $C_1 \sim C_3$ の両端の電圧関係は変化せず、積分信号の値 V_S には変化がないので、容量素子 $C_1 \sim C_4$ に発生する電荷の総計は、

$$Q' = Q \cdot (C_0 / C_4)$$

となる。すなわち、図2の場合に比べて (C_0 / C_4) 倍の電荷が可変容量部53に蓄積されることになる。以後、図2の場合と同様にして、垂直受光部11の第 i 番目の受光素子 12_i ($i = 1 \sim L$)それぞれに応じた光検出信号を順次読み出す。したがって、光電変換素子13に蓄積された電荷が極微小の場合にも良好な S/N を確保することができる。

【0046】

以上のように本実施形態に係る固体撮像装置では、可変容量積分回路50、比較回路60、容量制御部70および読み出し部80を1組として構成される信号処理部100は、CDS機能およびA/D変換機能を有するので、 S/N 比の向上およびオフセット誤差の抑制を簡単な回路構成で実現することができる。

【0047】

なお、垂直受光部11、積分回路30および信号処理部100それぞれの個数

を互いに同一としてもよい。しかし、以降の実施形態に示すように、垂直受光部11の個数M1、積分回路30の個数M2および信号処理部100の個数M3の間の関係を

$$M3 \leq M2 \leq M1, M3 < M1$$

とし、M1個の垂直受光部11、M2個の積分回路30およびM3組の信号処理部100を選択的に接続する選択的接続手段を更に備える場合には、これらを同一チップ上に搭載したときに、チップ上に搭載される回路規模の増加、チップ面積の増加およびチップの消費電力の増加それぞれを抑制することができるので好適である。ここで、選択的接続手段として、スイッチ素子20およびスイッチ素子40が用いられる。

【0048】

(第2の実施形態)

次に、本発明に係る固体撮像装置の第2の実施形態について説明する。図5は、第2の実施形態に係る固体撮像装置の構成図である。本実施形態に係る固体撮像装置は、垂直受光部11_j (j=1~16) が配列された受光部10、スイッチ素子20_j (j=1~16)、積分回路30_j (j=1~16)、スイッチ素子40_j (j=1~16)、シフトレジスタ部91~94および信号処理部100_j (j=1~4) を備える。なお、垂直受光部11、スイッチ素子20、積分回路30およびスイッチ素子40それぞれの個数は、ここでは16としているが、更に多くてもよい。

【0049】

受光部10は、受光素子12が2次元配列されたものである。すなわち、受光部10は、受光素子12が第1の方向に配列されて垂直受光部11_j (j=1~16) とされて、垂直受光部11_j が第2の方向に配列されたものである。垂直受光部11_j (j=1~16) それぞれは、第1の実施形態の垂直受光部11と同様の構成である。積分回路30_j (j=1~16) それぞれは、第1の実施形態の積分回路30と同様の構成である。信号処理部100_j (j=1~4) それぞれは、第1の実施形態の信号処理部100と同様の構成であり、可変容量積分回路50、比較回路60、容量制御部70および読み出し部80からなる。

【0050】

スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第1の実施形態のスイッチ素子 20 に相当し、スイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第1の実施形態のスイッチ素子 40 に相当する。また、スイッチ素子 20_j およびスイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) は、垂直受光部 11_j ($j = 1 \sim 16$)、積分回路 30_j ($j = 1 \sim 16$) および信号処理部 100_j ($j = 1 \sim 4$) を選択的に接続する選択的接続手段として作用する。すなわち、スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 16$) は、垂直受光部 11_j の共通の信号出力端子と積分回路 30_j の入力端子との間に設けられている。また、スイッチ素子 40_j ($j = 1, 5, 9, 13$) は、積分回路 30_j の出力端子と信号処理部 100_1 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 40_j ($j = 2, 6, 10, 14$) は、積分回路 30_j の出力端子と信号処理部 100_2 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 40_j ($j = 3, 7, 11, 15$) は、積分回路 30_j の出力端子と信号処理部 100_3 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 40_j ($j = 4, 8, 12, 16$) は、積分回路 30_j の出力端子と信号処理部 100_4 の入力端子との間に設けられている。

【0051】

シフトレジスタ部 $91 \sim 94$ それぞれは、選択的接続手段であるスイッチ素子 20_j およびスイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれの開閉を制御する。また、タイミング制御部（図示せず）が更に備えられている。タイミング制御部は、垂直受光部 11_j ($j = 1 \sim 16$) のスイッチ素子 14 、積分回路 30_j ($j = 1 \sim 16$) のリセット用のスイッチ素子 33 、および、信号処理部 100_j ($j = 1 \sim 4$) の可変容量積分回路 50 のリセット用のスイッチ素子 54 それぞれを所定のタイミングで開閉制御し、また、信号処理部 100_j ($j = 1 \sim 4$) の容量制御部 70 およびシフトレジスタ部 $91 \sim 94$ それぞれの動作を制御する。

【0052】

本実施形態に係る固体撮像装置は以下のように動作する。まず、シフトレジスタ部 $91 \sim 94$ それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 16$) のうちス

スイッチ素子 20_1 , 20_2 , 20_3 および 20_4 のみを閉じる。また、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 40_1 , 40_2 , 40_3 および 40_4 のみを閉じる。これにより、垂直受光部 11_1 、スイッチ素子 20_1 、積分回路 30_1 、スイッチ素子 40_1 および信号処理回路 100_1 は第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_2 、スイッチ素子 20_2 、積分回路 30_2 、スイッチ素子 40_2 および信号処理回路 100_2 も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_3 、スイッチ素子 20_3 、積分回路 30_3 、スイッチ素子 40_3 および信号処理回路 100_3 も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_4 、スイッチ素子 20_4 、積分回路 30_4 、スイッチ素子 40_4 および信号処理回路 100_4 も第1の実施形態の図1の構成となる。そして、これら4組が第1の実施形態に係る固体撮像装置の動作と同様の手順で並列的に動作することにより、垂直受光部 11_j ($j=1\sim4$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0053】

続いて、シフトレジスタ部91~94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 20_5 , 20_6 , 20_7 および 20_8 のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 40_5 , 40_6 , 40_7 および 40_8 のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j=5, 6, 7, 8$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0054】

さらに続いて、シフトレジスタ部91~94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 20_9 , 20_{10} , 20_{11} および 20_{12} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 40_9 , 40_{10} , 40_{11} および 40_{12} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j=9, 10, 11, 12$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0055】

そして、シフトレジスタ部91～94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 20_{13} , 20_{14} , 20_{15} および 20_{16} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 40_{13} , 40_{14} , 40_{15} および 40_{16} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j=13, 14, 15, 16$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0056】

以上のように、本実施形態に係る固体撮像装置は、第1の実施形態に係る固体撮像装置が奏する効果と同様の効果を奏する他、以下のような効果をも奏する。すなわち、従来の固体撮像装置では、チップ上において1つの垂直受光部毎に1つの信号処理部が備えられており、チップレイアウトの都合上、各信号処理部の幅は垂直受光部の幅と等しくならざるを得ず、各信号処理部のレイアウト形状は一方方向に長いものとなる。チップサイズは大きかった。これに対して、本実施形態に係る固体撮像装置では、信号処理部の個数が削減されたので、全体の回路規模は小さく、チップサイズは小さくなる。また、各信号処理部のレイアウト設計の自由度が増すので、この点でもチップサイズは小さくなる。

【0057】

(第3の実施形態)

次に、本発明に係る固体撮像装置の第3の実施形態について説明する。図6は、第3の実施形態に係る固体撮像装置の構成図である。本実施形態に係る固体撮像装置は、垂直受光部 11_j ($j=1\sim16$)が配列された受光部10、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)、積分回路 30_j ($j=1\sim4$)、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$)、シフトレジスタ部91～94および信号処理部 100_j ($j=1\sim4$)を備える。なお、ここでは、垂直受光部11、スイッチ素子20およびスイッチ素子40それぞれの個数は16とし、積分回路30の個数は4としているが、これらの個数は更に多くてもよい。

【0058】

受光部10は、受光素子12が2次元配列されたものである。すなわち、受光

部 10 は、受光素子 12 が第 1 の方向に配列されて垂直受光部 11_j ($j = 1 \sim 16$) とされて、垂直受光部 11_j が第 2 の方向に配列されたものである。垂直受光部 11_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第 1 の実施形態の垂直受光部 11 と同様の構成である。積分回路 30_j ($j = 1 \sim 4$) それぞれは、第 1 の実施形態の積分回路 30 と同様の構成である。信号処理部 100_j ($j = 1 \sim 4$) それぞれは、第 1 の実施形態の信号処理部 100 と同様の構成であり、可変容量積分回路 50、比較回路 60、容量制御部 70 および読み出し部 80 からなる。

【0059】

スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第 1 の実施形態のスイッチ素子 20 に相当し、スイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第 1 の実施形態のスイッチ素子 40 に相当する。また、スイッチ素子 20_j およびスイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) は、垂直受光部 11_j ($j = 1 \sim 16$)、積分回路 30_j ($j = 1 \sim 4$) および信号処理部 100_j ($j = 1 \sim 4$) を選択的に接続する選択的接続手段として作用する。すなわち、スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 4$) は、垂直受光部 11_j の共通の信号出力端子と積分回路 30_1 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 20_j ($j = 5 \sim 8$) は、垂直受光部 11_j の共通の信号出力端子と積分回路 30_2 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 20_j ($j = 9 \sim 12$) は、垂直受光部 11_j の共通の信号出力端子と積分回路 30_3 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 20_j ($j = 13 \sim 16$) は、垂直受光部 11_j の共通の信号出力端子と積分回路 30_4 の入力端子との間に設けられている。また、スイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 4$) は、積分回路 30_1 の出力端子と信号処理部 100_1 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 40_j ($j = 5 \sim 8$) は、積分回路 30_2 の出力端子と信号処理部 100_2 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 40_j ($j = 9 \sim 12$) は、積分回路 30_3 の出力端子と信号処理部 100_3 の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子 40_j ($j = 13 \sim 16$) は、積分回路 30_4 の出力端子と信号処理部 100_4 の入力端子との間に設けられている。

【0060】

シフトレジスタ部91～94それぞれは、選択的接続手段であるスイッチ素子 20_j およびスイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$) それぞれの開閉を制御する。また、タイミング制御部(図示せず)が更に備えられている。タイミング制御部は、垂直受光部 11_j ($j=1\sim16$) のスイッチ素子14、積分回路 30_j ($j=1\sim4$) のリセット用のスイッチ素子33、および、信号処理部 100_j ($j=1\sim4$) の可変容量積分回路50のリセット用のスイッチ素子54それぞれを所定のタイミングで開閉制御し、また、信号処理部 100_j ($j=1\sim4$) の容量制御部70およびシフトレジスタ部91～94それぞれの動作を制御する。

【0061】

本実施形態に係る固体撮像装置は以下のように動作する。まず、シフトレジスタ部91～94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$) のうちスイッチ素子 20_1 、 20_5 、 20_9 および 20_{13} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$) のうちスイッチ素子 40_1 、 40_5 、 40_9 および 40_{13} のみを閉じる。これにより、垂直受光部 11_1 、スイッチ素子 20_1 、積分回路 30_1 、スイッチ素子 40_1 および信号処理回路 100_1 は第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_5 、スイッチ素子 20_5 、積分回路 30_2 、スイッチ素子 40_5 および信号処理回路 100_2 も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_9 、スイッチ素子 20_9 、積分回路 30_3 、スイッチ素子 40_9 および信号処理回路 100_3 も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_{13} 、スイッチ素子 20_{13} 、積分回路 30_4 、スイッチ素子 40_{13} および信号処理回路 100_4 も第1の実施形態の図1の構成となる。そして、これら4組が第1の実施形態に係る固体撮像装置の動作と同様の手順で並列的に動作することにより、垂直受光部 11_j ($j=1, 5, 9, 13$) それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$) から同時に出力する。

【0062】

続いて、シフトレジスタ部91～94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$) のうちスイッチ素子 20_1 、 20_5 、 20_9 および 20_{13} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j=1\sim16$) のうちスイッチ素子 40_1 、 40_5 、 40_9 および 40_{13} のみを閉じる。これにより、垂直受光部 11_1 、スイッチ素子 20_1 、積分回路 30_1 、スイッチ素子 40_1 および信号処理回路 100_1 は第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_5 、スイッチ素子 20_5 、積分回路 30_2 、スイッチ素子 40_5 および信号処理回路 100_2 も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_9 、スイッチ素子 20_9 、積分回路 30_3 、スイッチ素子 40_9 および信号処理回路 100_3 も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部 11_{13} 、スイッチ素子 20_{13} 、積分回路 30_4 、スイッチ素子 40_{13} および信号処理回路 100_4 も第1の実施形態の図1の構成となる。そして、これら4組が第1の実施形態に係る固体撮像装置の動作と同様の手順で並列的に動作することにより、垂直受光部 11_j ($j=1, 5, 9, 13$) それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$) から同時に出力する。

$j = 1 \sim 16$) のうちスイッチ素子 20_2 , 20_6 , 20_{10} および 20_{14} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) のうちスイッチ素子 40_2 , 40_6 , 40_{10} および 40_{14} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j = 2, 6, 10, 14$) それぞれの各受光素子 12 の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k = 1 \sim 4$) から同時に出力する。

【0063】

さらに続いて、シフトレジスタ部 91~94 それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 16$) のうちスイッチ素子 20_3 , 20_7 , 20_{11} および 20_{15} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) のうちスイッチ素子 40_3 , 40_7 , 40_{11} および 40_{15} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j = 3, 7, 11, 15$) それぞれの各受光素子 12 の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k = 1 \sim 4$) から同時に出力する。

【0064】

そして、シフトレジスタ部 91~94 それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j = 1 \sim 16$) のうちスイッチ素子 20_4 , 20_8 , 20_{12} および 20_{16} のみを閉じ、また、スイッチ素子 40_j ($j = 1 \sim 16$) のうちスイッチ素子 40_4 , 40_8 , 40_{12} および 40_{16} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j = 4, 8, 12, 16$) それぞれの各受光素子 12 の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k = 1 \sim 4$) から同時に出力する。

【0065】

以上のように、本実施形態に係る固体撮像装置は、第1の実施形態に係る固体撮像装置が奏する効果と同様の効果を奏する他、以下のような効果をも奏する。すなわち、本実施形態に係る固体撮像装置では、積分回路および信号処理部の個数が削減されたので、全体の回路規模は小さく、チップサイズは小さくなる。また、各信号処理部のレイアウト設計の自由度が増すので、この点でもチップサイズは小さくなる。

【0066】

(第4の実施形態)

次に、本発明に係る固体撮像装置の第4の実施形態について説明する。図7は

、第4の実施形態に係る固体撮像装置の構成図である。本実施形態に係る固体撮像装置は、垂直受光部11_j ($j = 1 \sim 16$) が配列された受光部10、スイッチ素子20_j ($j = 1 \sim 16$)、積分回路30_j ($j = 1 \sim 4$)、スイッチ素子40_j ($j = 1 \sim 4$)、シフトレジスタ部91～94および信号処理部100_j ($j = 1 \sim 4$) を備える。なお、ここでは、垂直受光部11およびスイッチ素子20それぞれの個数は16とし、積分回路30およびスイッチ素子40の個数は4としているが、これらの個数は更に多くてもよい。

【0067】

受光部10は、受光素子12が2次元配列されたものである。すなわち、受光部10は、受光素子12が第1の方向に配列されて垂直受光部11_j ($j = 1 \sim 16$) とされて、垂直受光部11_j が第2の方向に配列されたものである。垂直受光部11_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第1の実施形態の垂直受光部11と同様の構成である。積分回路30_j ($j = 1 \sim 4$) それぞれは、第1の実施形態の積分回路30と同様の構成である。信号処理部100_j ($j = 1 \sim 4$) それぞれは、第1の実施形態の信号処理部100と同様の構成であり、可変容量積分回路50、比較回路60、容量制御部70および読み出し部80からなる。

【0068】

スイッチ素子20_j ($j = 1 \sim 16$) それぞれは、第1の実施形態のスイッチ素子20に相当し、スイッチ素子40_j ($j = 1 \sim 4$) それぞれは、第1の実施形態のスイッチ素子40に相当する。また、スイッチ素子20_j ($j = 1 \sim 16$) およびスイッチ素子40_j ($j = 1 \sim 4$) は、垂直受光部11_j ($j = 1 \sim 16$)、積分回路30_j ($j = 1 \sim 4$) および信号処理部100_j ($j = 1 \sim 4$) を選択的に接続する選択的接続手段として作用する。すなわち、スイッチ素子20_j ($j = 1 \sim 4$) は、垂直受光部11_j の共通の信号出力端子と積分回路30₁ の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子20_j ($j = 5 \sim 8$) は、垂直受光部11_j の共通の信号出力端子と積分回路30₂ の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子20_j ($j = 9 \sim 12$) は、垂直受光部11_j の共通の信号出力端子と積分回路30₃ の入力端子との間に設けられている。スイッチ素子20_j ($j = 13 \sim 16$) は、垂直受光部11_j の共通の信号出力端子と

積分回路30₄の入力端子との間に設けられている。また、スイッチ素子40_j (j=1~4)は、積分回路30_jの出力端子と信号処理部100_jの入力端子との間に設けられている。

【0069】

シフトレジスタ部91~94それぞれは、選択的接続手段であるスイッチ素子20_j (j=1~16)およびスイッチ素子40_j (j=1~4)それぞれの開閉を制御する。また、タイミング制御部(図示せず)が更に備えられている。タイミング制御部は、垂直受光部11_j (j=1~16)のスイッチ素子14、積分回路30_j (j=1~4)のリセット用のスイッチ素子33、および、信号処理部100_j (j=1~4)の可変容量積分回路50のリセット用のスイッチ素子54それぞれを所定のタイミングで開閉制御し、また、信号処理部100_j (j=1~4)の容量制御部70およびシフトレジスタ部91~94それぞれの動作を制御する。

【0070】

本実施形態に係る固体撮像装置は以下のように動作する。なお、図7に示すように垂直受光部11の数が16個であれば、スイッチ素子40_j (j=1~4)それぞれは閉じたままでよい。

【0071】

まず、シフトレジスタ部91~94それぞれにより、スイッチ素子20_j (j=1~16)のうちスイッチ素子20₁, 20₅, 20₉および20₁₃のみを閉じる。これにより、垂直受光部11₁、スイッチ素子20₁、積分回路30₁、スイッチ素子40₁および信号処理回路100₁は第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部11₅、スイッチ素子20₂、積分回路30₂、スイッチ素子40₂および信号処理回路100₂も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部11₉、スイッチ素子20₃、積分回路30₃、スイッチ素子40₃および信号処理回路100₃も第1の実施形態の図1の構成となる。垂直受光部11₁₃、スイッチ素子20₄、積分回路30₄、スイッチ素子40₄および信号処理回路100₄も第1の実施形態の図1の構成となる。そして、これら4組が第1の実施形態に係る固体撮像装置の動作と同様の手順で並列的に動作することに

より、垂直受光部 11_j ($j=1, 5, 9, 13$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0072】

続いて、シフトレジスタ部91～94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 $20_2, 20_6, 20_{10}$ および 20_{14} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j=2, 6, 10, 14$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0073】

さらに続いて、シフトレジスタ部91～94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 $20_3, 20_7, 20_{11}$ および 20_{15} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j=3, 7, 11, 15$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0074】

そして、シフトレジスタ部91～94それぞれにより、スイッチ素子 20_j ($j=1\sim16$)のうちスイッチ素子 $20_4, 20_8, 20_{12}$ および 20_{16} のみを閉じて、垂直受光部 11_j ($j=4, 8, 12, 16$)それぞれの各受光素子12の受光量に応じたデジタル信号を信号処理部 100_k ($k=1\sim4$)から同時に出力する。

【0075】

以上のように、本実施形態に係る固体撮像装置は、第1の実施形態に係る固体撮像装置が奏する効果と同様の効果を奏する他、以下のような効果をも奏する。すなわち、本実施形態に係る固体撮像装置では、積分回路、スイッチ素子および信号処理部の個数が削減されたので、全体の回路規模は小さく、チップサイズは小さくなる。また、各信号処理部のレイアウト設計の自由度が増すので、この点でもチップサイズは小さくなる。

【0076】

【発明の効果】

以上、詳細に説明したとおり、本発明によれば、可変容量積分回路、比較回路および容量制御部を含む信号処理部は、CDS機能およびA/D変換機能を有するので、S/N比の向上およびオフセット誤差の抑制を簡単な回路構成で実現することができる。また、 $M3 \leq M2 \leq M1$ 、 $M3 < M1$ として、M1個の垂直受光部、M2個の積分回路およびM3組の信号処理部それぞれの何れかが選択的接続手段により選択されて接続される場合には、全体の回路規模は小さく、チップサイズは小さくなる。さらに、各信号処理部のレイアウト設計の自由度が増すことにより、受光部の各垂直受光部の配列方向の側部に各信号処理部を配置することができるので、この点でもチップサイズは小さくなり、また、正方形に近い形状のイメージセンサを実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

第1の実施形態に係る固体撮像装置の回路構成図である。

【図2】

可変容量積分回路の回路構成図である。

【図3】

第1の実施形態に係る固体撮像装置の動作説明図である。

【図4】

可変容量積分回路の他の回路構成図である。

【図5】

第2の実施形態に係る固体撮像装置の構成図である。

【図6】

第3の実施形態に係る固体撮像装置の構成図である。

【図7】

第4の実施形態に係る固体撮像装置の構成図である。

【符号の説明】

10…受光部、11…垂直受光部、12…受光素子、13…光電変換素子、1

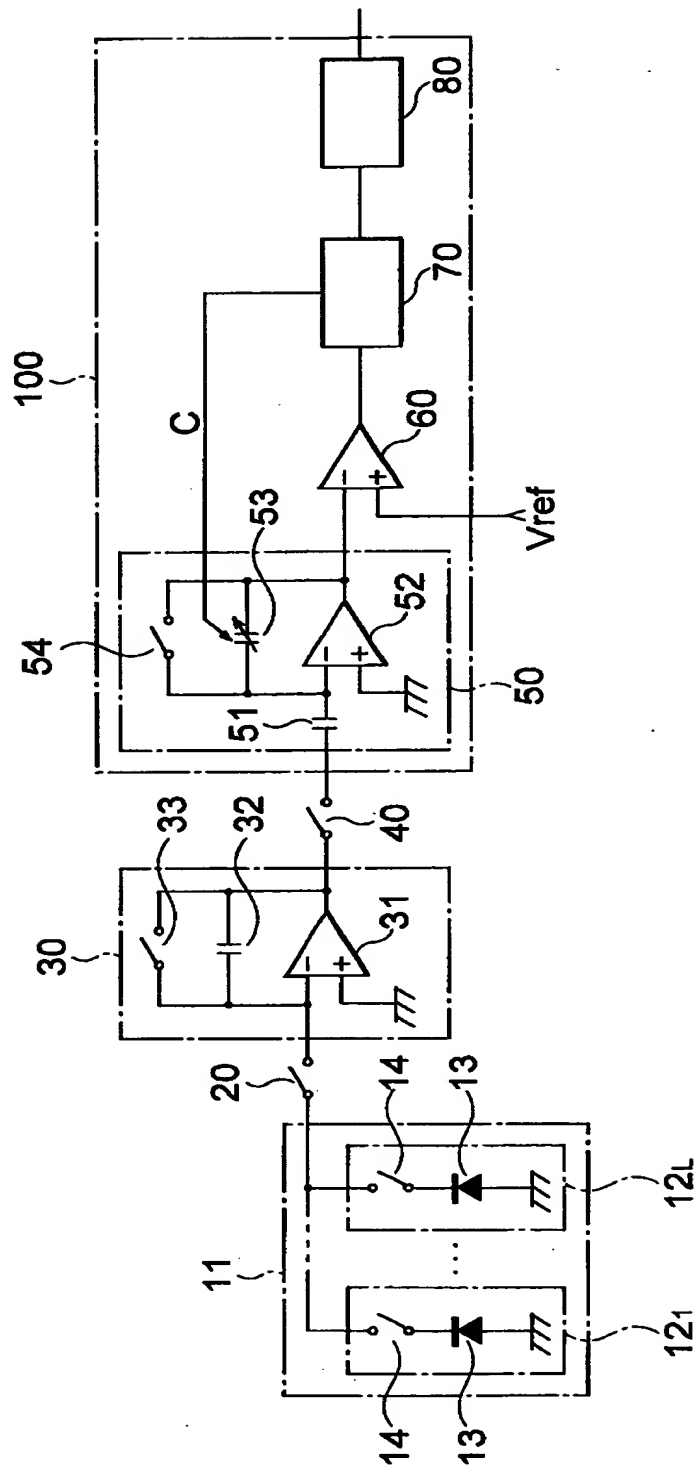
4…スイッチ素子、20…スイッチ素子、30…積分回路、31…電荷増幅器、
32…容量素子、33…スイッチ素子、40…スイッチ素子、50…可変容量積
分回路、51…容量素子、52…増幅器、53…可変容量部、54…スイッチ素
子、60…比較回路、70…容量制御部、80…読み出し部、91～94…シフ
トレジスタ部、100…信号処理部。

代理人弁理士 長谷川 芳樹

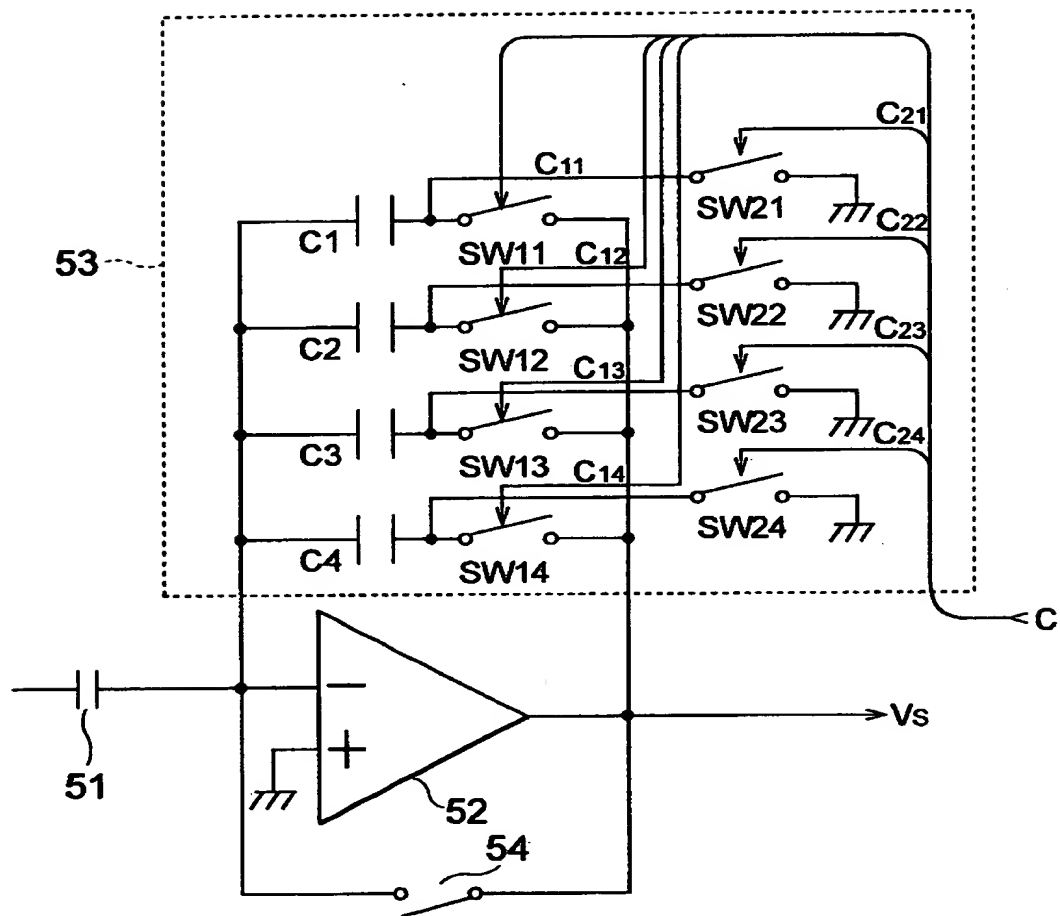
同 柴田 昌聰

【書類名】 図面

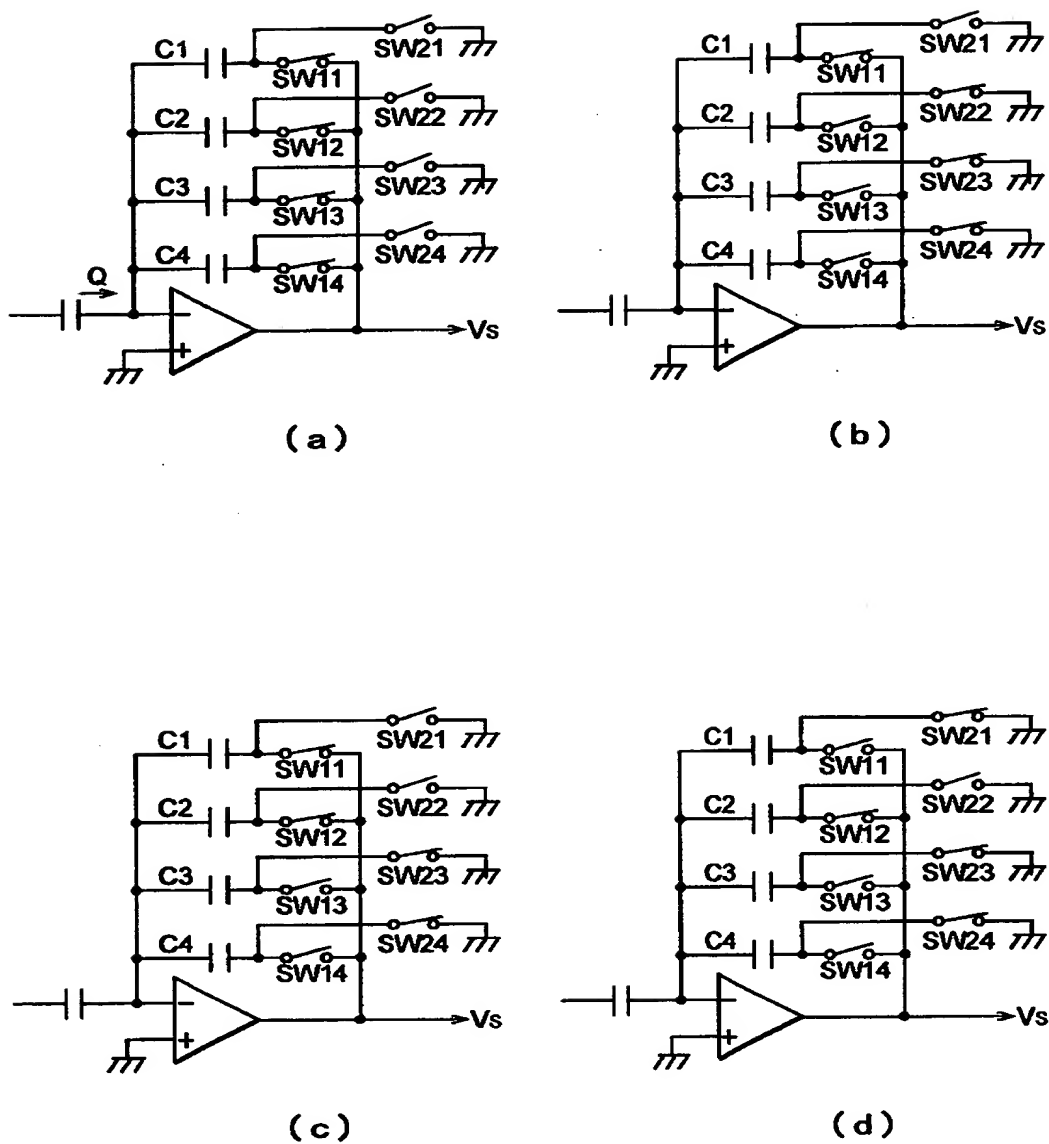
【図 1】



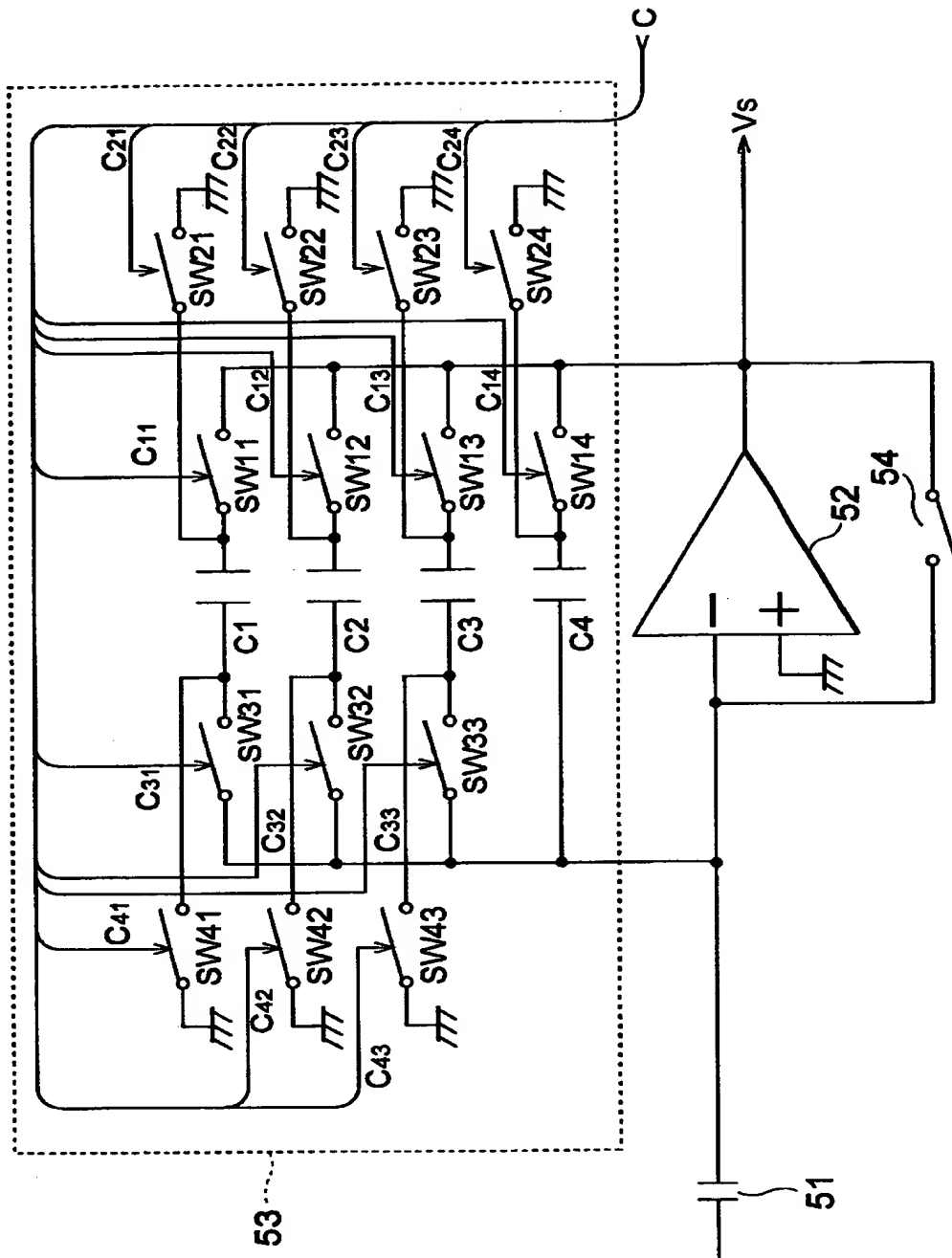
【図2】



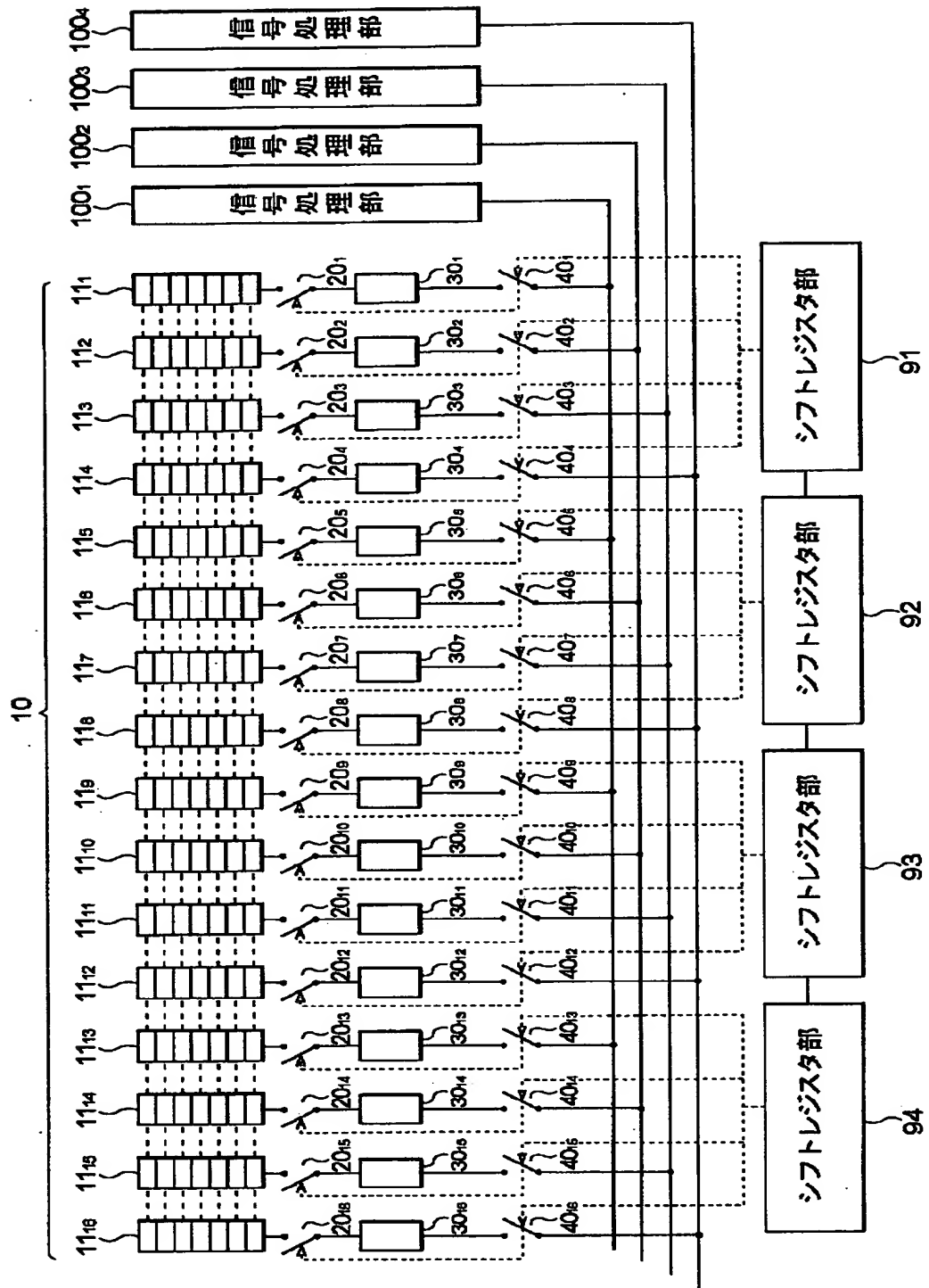
【図 3】



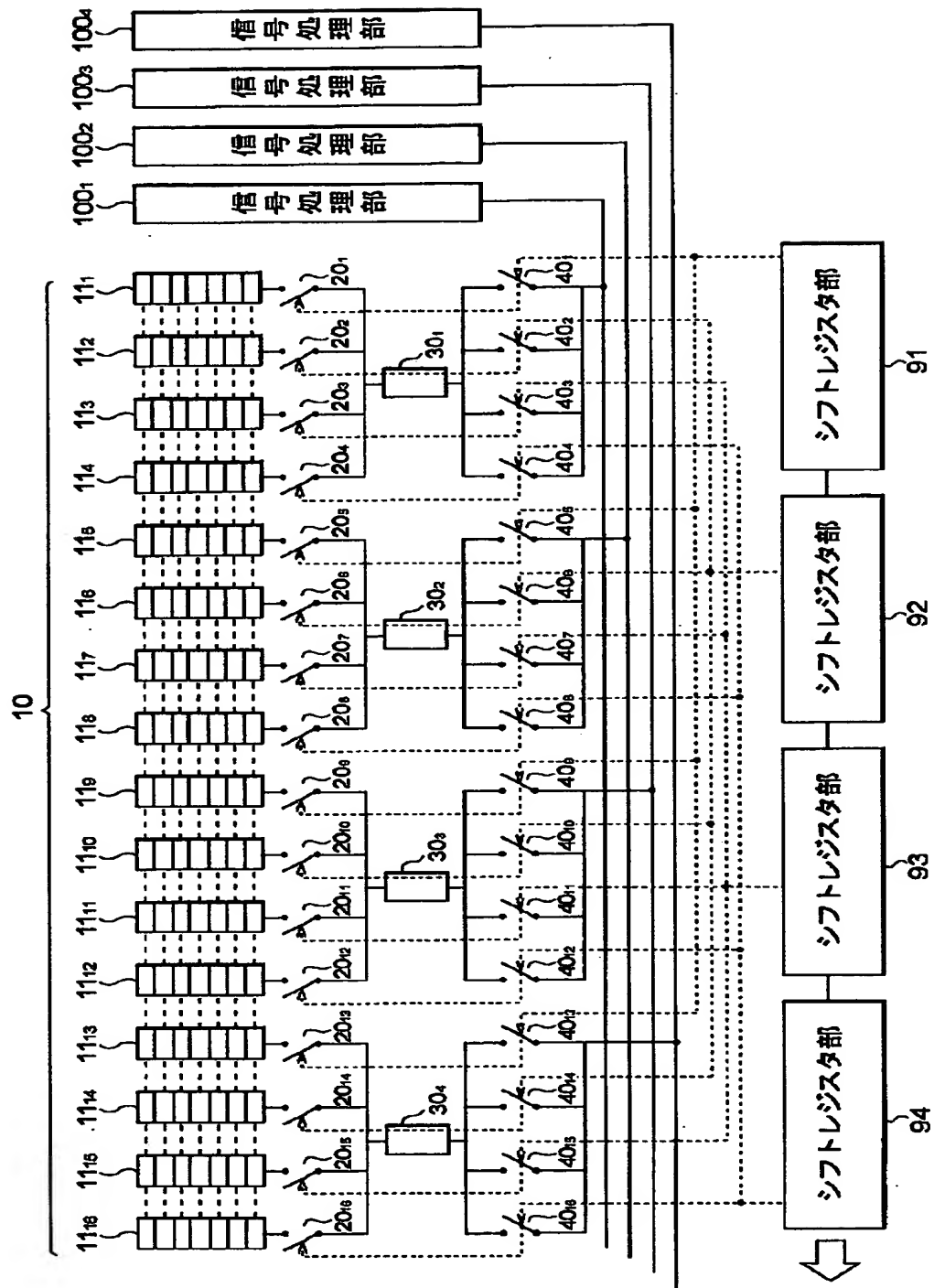
【図 4】



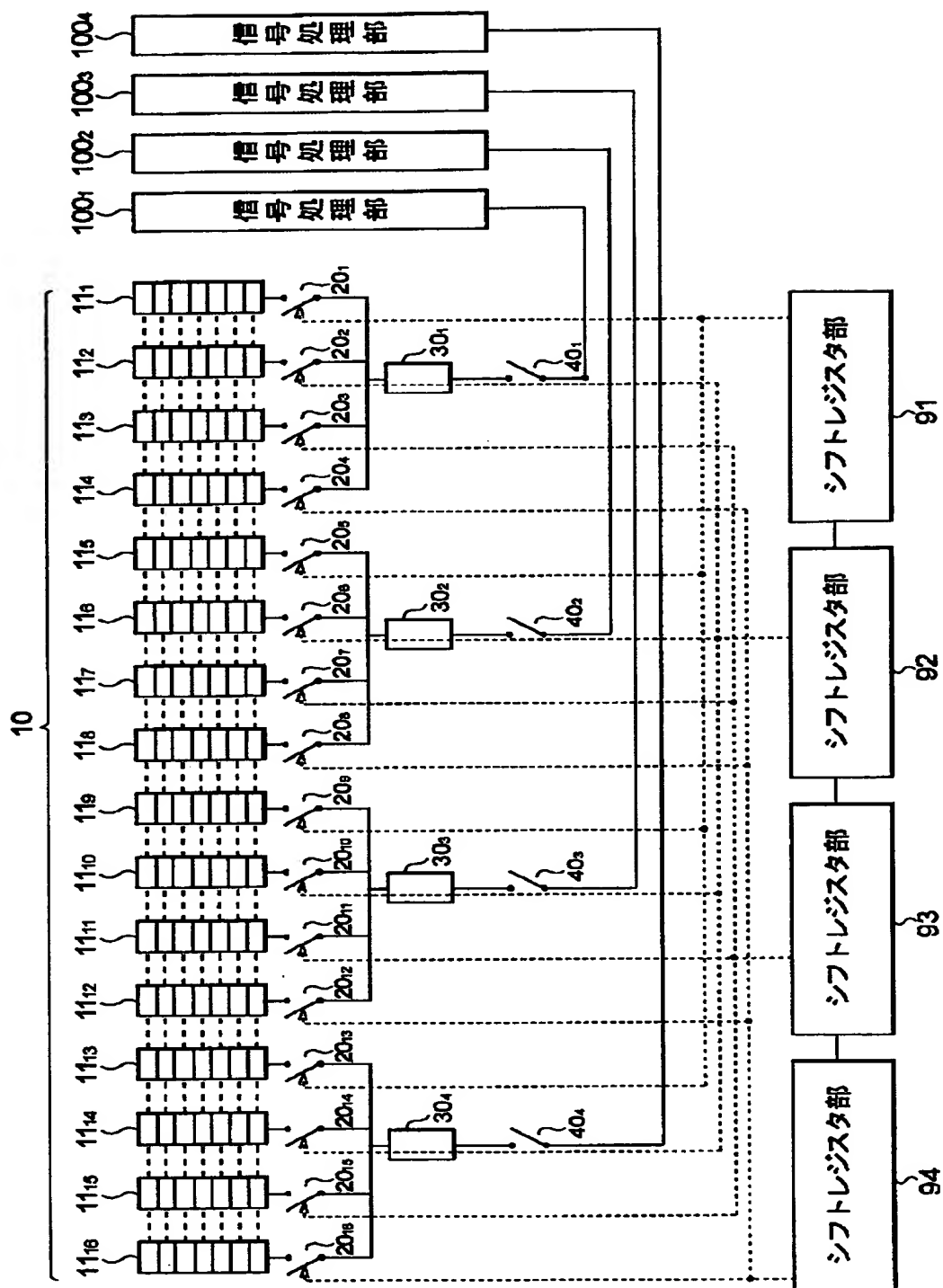
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 S/N比が優れ、増幅器がオフセットばらつきを有していてもオフセット誤差を生じることなく、回路規模が小さい固体撮像装置を提供する。

【解決手段】 光電変換素子 13 の受光量に応じた電流信号が積分回路 30 に入力して積分され、積分回路 30 から電圧信号が出力される。スイッチ素子 40 が閉じると、積分回路 30 から出力された電圧信号は可変容量積分回路 50 の容量素子 51 に入力し、その電圧信号の変動分が増幅器 52 に入力し、その電圧信号の変動分と可変容量部 53 の容量値とに応じた電荷が可変容量部 53 に流入する。可変容量積分回路 50 から出力される積分信号の値と基準値とが一致するように、比較回路 60 および容量制御部 70 により可変容量部 53 の容量値が制御される。可変容量部 53 の容量値に応じた第 1 のデジタル信号が容量制御部 70 から出力される。

【選択図】 図 1

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000236436
【住所又は居所】 静岡県浜松市市野町 1 1 2 6 番地の 1
【氏名又は名称】 浜松ホトニクス株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100088155
【住所又は居所】 東京都中央区京橋二丁目 1 3 番 1 0 号 京橋ナショナルビル 6 階 創英国際特許事務所
【氏名又は名称】 長谷川 芳樹

【選任した代理人】

【識別番号】 100089978
【住所又は居所】 東京都中央区京橋二丁目 1 3 番 1 0 号 京橋ナショナルビル 6 階 創英国際特許事務所
【氏名又は名称】 塩田 辰也

【選任した代理人】

【識別番号】 100092657
【住所又は居所】 東京都中央区京橋二丁目 1 3 番 1 0 号 京橋ナショナルビル 6 階 創英国際特許事務所
【氏名又は名称】 寺崎 史朗

【選任した代理人】

【識別番号】 100110582
【住所又は居所】 東京都中央区京橋二丁目 1 3 番 1 0 号 京橋ナショナルビル 6 階 創英国際特許事務所
【氏名又は名称】 柴田 昌聰

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000236436]

1. 変更年月日 1990年 8月10日

[変更理由] 新規登録

住 所 静岡県浜松市市野町1126番地の1

氏 名 浜松ホトニクス株式会社